

第四十四回 帝國議會 貴族院議事速記録第二十三號

大正十年三月二十二日(火曜日)

午前十時十八分開議

議事日程 第二十三號 大正十年三月二十二日

午前十時開議

- 第一 簡易生命保險特別會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第二 樺太ノ地方制度ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第三 府縣制中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第四 北海道會法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第五 北海道地方費法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第六 郡制廢止ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第七 衆議院議員選舉區ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第八 執達吏規則中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第九 民事訴訟費用法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十 刑事訴訟費用法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十一 公有水面埋立法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十二 黃燐燐寸製造禁止法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔成瀬書記官朗讀〕

去ル十九日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

裁判所構成法中改正法律案

度量衡法中改正法律案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

定年ニ因ル退職判事檢事ノ恩給ニ關スル法律案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

煙草專賣法中改正法律案

大正五年法律第四號中改正法律案

朝鮮事業公債法中改正法律案

臺灣事業公債法中改正法律案

樺太事業公債法中改正法律案

大學特別會計法案

大正八年法律第十二號中改正法律案

軍用自動車補助法中改正法律案

大正四年法律第十六號中改正法律案

大正九年法律第五十三號中改正法律案

畜牛結核病豫防法中改正法律案

同日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

日本勸業銀行及農工銀行ノ合併ニ關スル法律案外三件特別委員會

委員長 侯爵佐佐木行忠君 副委員長 小山 健三君

軌道法案特別委員會 委員長 伯爵松木 宗隆君 副委員長 男爵宇佐川 一正君

產業組合法中改正法律案特別委員會 委員長 石塚 英藏君 副委員長 西川 甚五郎君

住宅組合法案特別委員會 委員長 大久保 利武君 副委員長 高橋 隆一君

黃燐燐寸製造禁止法案特別委員會 委員長 淺田 徳則君 副委員長 男爵岩 佐新君

同日特別委員會長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

黃燐燐寸製造禁止法案可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

簡易生命保險特別會計法中改正法律案

樺太ノ地方制度ニ關スル法律案

府縣制中改正法律案

北海道會法中改正法律案

北海道地方費法中改正法律案

郡制廢止ニ關スル法律案

衆議院議員選舉區ニ關スル法律案

一昨二十日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

執達吏規則中改正法律案可決報告書

民事訴訟費用法中改正法律案可決報告書

刑事訴訟費用法案可決報告書

公有水面埋立法案可決報告書

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、一昨二十日今城子

爵病氣ニ付、市制中改正法律案外三件ノ特別委員ノ辭任ヲ申出ラレマシタ、許可ヲ致スコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、其補缺トシテ中川伯爵ヲ指名イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第一、簡易生命保險特別會計法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔左ノ通牒文及議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ做フ〕

簡易生命保險特別會計法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十年三月十九日

衆議院議長 奧 繁二郎

貴族院議長公爵德川家達殿

簡易生命保險特別會計法中改正法律案

簡易生命保險特別會計法中左ノ通改正ス

第三條ノ二 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルルコトヲ得

ニ預入ルルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣野田卯太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(野田卯太郎君) 會期切迫ノ際ニ斯ノ如キ小サイ案ヲ出シマシテ

誠ニ恐縮ニ存ジマスガ、本案ハ今般提出サレテ居リマスル會計法ニ多少ノ關係ヲ有チマシテ、之ヲ動機ト致シマシテ提出シマシタ譯デゴザイマスガ、其譯ハ從來此ノ簡易保險ノ方ハ該年度ノ收支決算ヲシタ後ニアラザレバ、是ガソノ預金其他ニ融通ヲ許サヌコトニナツテ居リマシタ、此度ノ會計法改正ハ預金制度ニナル筈デアリマスカラ、此ノ簡易保險ニ於テ收入シタモノハ、其支出ヲ引去ツタモノハ月々此ノ預金部ニ預入シタイト云フガ主眼デゴザイマス、斯ク致シマスレバ、利子ノ上ニ於キマシテモ十七八萬圓ハ更ニ是マデ取レナイ利子ガ取ラレルヤウニナル譯デゴザイマス、近來此ノ簡易保險モ長足ノ進歩ヲ致シマシテ、昨年御協賛ヲ得テ豫算ヲ得マシタガ、局ヲ置イテ以來、本年ノ豫算ニ於キマシテ一箇年ノ收入ハ約千二百萬圓ニナリマシタ、支出モ從ツテ多クナリマシタガ、差引キ六百萬位ハ社會事業、公共團體ニ融通スルトガ出來ルト云フ豫算ニナツテ居リマス、斯ウ云フ譯デアリマシテ、此度ノ改正ハ右申述ベタ趣意デアリマスガ、將來ハ益、進歩ヲスルト當局デハ考ヘテ居リマスカラ、此ノ會期切迫デハゴザイマスガ、ドウカ速ニ御協賛下サレムコトヲ偏ニ願ヒマス、委細ハ委員會ニ於テ申上ゲルコトニ致シマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ノ特別委員ハ、會計法改正法律案外五件ノ特別委員ニ付託シタク存ジマス、御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第二、樺太ノ地方制度ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

樺太ノ地方制度ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十年三月十九日

衆議院議長 奧 繁二郎

貴族院議長公爵德川家達殿

樺太ノ地方制度ニ關スル法律案

第一條 樺太ニ地方ノ事務ヲ處理セシムル爲町又ハ村ヲ置ク

町又ハ村ノ名稱及區域ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第二條 町村ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル事務

ヲ處理ス

第三條 町村ニ町村長ヲ置ク樺太廳長官之ヲ任免ス

町村長ハ町村ノ事務ヲ擔任シ町村ヲ代表ス

第四條 町村ニ町村評議會ヲ置ク

評議會ハ町村評議員ヲ以テ組織シ町村長ノ諮問ニ應シ意見ヲ開申ス

町村評議員ハ名譽職トス町村ニ住所ヲ有スル者ニ就キ樺太廳支廳長之ヲ

命ス

第五條 町村ハ法律勅令ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ

負フ

第六條 町村ハ前條ノ費用ニ充ツル爲町村稅、使用料、手数料及夫役現品

ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第七條 町村ハ永久ノ利益ト爲ルヘキ事業、舊債償還又ハ天災事變ノ爲必

要アル場合ニ限リ借入金ヲ爲スコトヲ得

町村ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲必要アルトキハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以

テ償還スヘキ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第八條 本法ニ定ムルモノノ外町村吏員、町村評議會、町村評議員、町村

ノ財務、町村ノ監督其ノ他ノ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本法ハ樺太廳長官ノ指定スル地域ニ付之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員永井金次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(永井金次郎君) 本案ニ付マシテ聊カ説明ヲ致シテ置キマス、本案ハ樺太ノ地方制度ニ關シマスル法案デゴザイマス、樺太ハ領有以來既ニ十有七年ヲ經過シテ居リマシテ、此間國運ノ發展ニ伴ヒマシテ、段々樺太ノ制度モ發達ヲ致シテ參リマシテゴザイマス、從ヒマシテ既ニ人口八十一萬ヲ算シテ居ルヤウナ次第デアリマシテ、而シテ町村ノ數ニ於キマシテモ既ニ六十有ニ算スルヤウナ次第デアリマス、此ノ六十有ニノ町村ヲ組織セラレテ居リマシテ、而モ此ノ町村ニ於キマシテハ學校ノ設備ノ如キ、或ハ道路ノ施設ノ如キ、或ハ消防設置ノ如キ、或ハ衛生上ノ施設ノ如キ、共同ノ設備ヲ要シマスルコトハ少ナクナイノデアリマス、其他行政上ニ於キマシテ或ハ戶籍法ノ問題、或ハ兵事ノ問題、或ハ土地臺帳ノヤウナ問題デ、行政上非常ニ事務ガ

複雜ニナツテ參リマシテゴザイマス、然ニ今日マデ斯様ナル公共ノ事務或ハ行政事務ヲ執リマス所ノ何等法規上ノ制度ガ無イノデゴザイマス、何等ノ機關

ガ無イノデゴザイマシテ、甚ダ不便不利ヲ極メテ居ルノデアリマス、就キマシテハドウシテモ是等ノ公共ノ事務ヲ執リ或ハ行政事務ヲ執リマスル上ニ於

キマシテ、何等カノ制度機關ヲ設ケルト云フヤウナ非常ナ急務ニ迫ッテ居ルノ

デゴザイマス、就キマシテハ多年是等ノ問題ニ付マシテ相當ノ調査ヲ遂ゲ

マシテゴザイマス、併ナガラ樺太ノ民度ノ狀況ニ應ジマシテ、内地ノ町村制

ヲ其儘施行スルト云フコトハ少シク尙早ノ感ジガゴザイマスノデ、ドウシ

テモ樺太ニ適切ナル制度ヲ設ケル必要ガアルト考ヘマスノデアリマス、而シ

テ其研究ノ結果、今回提案イタシマシタ一ツノ成案ヲ得マシタノデアリマス、

此成案ハ極メテ簡單ニ致シマシテ、先ヅ大體ニ於テ今日ノ町村ノ人格ヲ認メ

ルコトト、其町村ガ起債權ヲ有チマスルコトト、及ビ此納稅ノ徵收權ヲ有チマ

スルコトト、財産權ヲ所有スルト云フ能力ヲ有タスト云フヤウナコトニ致シ

マシテ、要スルニ出來得ルダケ簡捷ニ致シテ、而シテ町村長ノ如キ或ハ町村

會議員ノ如キモノハ成ベク選舉ノ制度ヲ省キマシテ、總テ官廳ニ於テ任命ス

ル形式ニ致シマシテ、出來得ル限リ町村デハ簡易ヲ旨ト致シマシタ次第デア

リマス、而シテ此ノ法律以外ノ細則ニ涉リマス事柄ハ、總テ勅令ニ讓ルト云

フノデアリマス、以上ノ次第デアリマシテ、本案ヲ設ケタ次第デアリマス、

以上ノヤウナ次第デアリマシテ、極メテ樺太ニ於キマシテハ日下急務ニ差迫ッ

テ居ル問題デアリマスノデ、甚ダ會期切迫ノ折柄、恐縮デゴザイマスガ、ド

ウゾ御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ特別委員ハ、御異議ガナケレバ市制中改正

法律案外三件ノ特別委員ニ付託イタシマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 日程第三、第四、第五、第六、第七ハ一括シテ問

題ト致シ、議案ノ説明ヲ煩ハシタク考ヘマス、御異存ゴザイマセヌカ

〔「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第三、府縣制中改正法律案、第四、北海道會

法中改正法律案、第五、北海道地方費法中改正法律案、第六、郡制廢止ニ關

貴族院議事速記録第二十三號

大正十年三月二十二日 府縣制中改正法律案外四件 第一讀會

七三五

スル法律案、第七、衆議院議員選舉區ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

府縣制中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十年三月十九日

衆議院議長 奧 繁二郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔小字ハ衆議院ノ修正、ハ同削除ノ符號ナリ〕

府縣制中改正法律案

府縣制中左ノ通改正ス

第四條ニ左ノ二項ヲ加フ

府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ル選舉區ヲ分チテ數選舉區ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選舉區ヲ分ツ場合ニ付テ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條第一項乃至第三項ヲ左ノ如ク改ム

府縣内ノ市町村公民ニシテ一年以來其ノ府縣内ニ於テ直接國稅ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納稅ト看做ス

確定名簿ニ登錄セラレタル者ハ其ノ名簿調製期日後選舉權ノ納稅要件ヲ闕クニ至リタル場合ト雖其ノ確定名簿據置ノ期間内仍選舉權ヲ有ス

同條第五項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及戰時又ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セス

市町村公民權停止中ノ者ハ府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セス

同條第九項ヲ左ノ如ク改ム

府縣ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員及支配人ハ其ノ府縣ニ於テ被選舉權ヲ有セス

前項ノ役員トハ取締役、監查役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

第八條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

議員闕員ト爲リタルトキ其ノ議員カ第二十九條第二項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合又ハ本條本項、第三十二條第一項但書若

ハ第三十六條第一項但書ノ規定ニ依ル第二十九條第二項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合ニ於テハ選舉長ハ直ニ第二十九條第二

項ノ規定ノ適用又ハ準用ヲ受ケタル他ノ得票者ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ

此ノ場合ニ於テハ第二十九條第二項及第三十一條ノ規定ヲ準用ス

第十一條中「九月十五日」ヲ「九月二十日」ニ改ム

第十二條中「郡市長ハ十月二十日ヨリ十五日間其ノ郡市役所ニ於テ」ヲ「郡市町村長ハ十月二十日ヨリ十五日間其ノ郡市役所町村役場ニ於テ」ニ、

町村長ハ之ヲ告示スヘシ」ヲ「町村長ハ名簿ヲ修正シ之ヲ告示スヘシ」ニ改ム

第二十三條第二項中「場所」ノ下ニ「及日時」ヲ加フ

第二十四條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム

郡市長ハ選舉人中ヨリ選舉立會人二名乃至六名ヲ選任スヘシ

第二十五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ同條中「前項」ヲ「第一項」ニ改ム

天災事變等ノ爲所定ノ期日ニ選舉會ヲ開クコトヲ得サルトキハ郡市長ハ

前項ノ規定ニ拘ラス更ニ其ノ期日ヲ定ムヘシ

第二十七條第六號ヲ第七號トシ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

六 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項第七號ノ規定ハ總選舉ノ場合ニ於テ第二十二條ノ規定ニ依リ投票期日ヲ定メタルトキハ之ヲ適用セス

第三十一條中「第六條第七項」ヲ「第六條第九項」ニ改ム

第三十二條 當選者當選ヲ辭シタルトキ、數選舉區ノ選舉ニ當リ前條第三項ノ規定ニ依リ一ノ選舉區ノ選舉ニ應シタル爲他ノ選舉區ニ於テ當選者

タラサルニ至リタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効トナリタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ其ノ當選者第二十九條第二項ノ規定ノ適用又ハ準用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合ニ於テハ第八條第二項ノ例ニ依ル

當選者選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効トナリタルトキ其ノ前ニ其ノ者ニ關スル補闕選舉若ハ前項ノ選舉ノ告示ヲ爲シタル場

合又ハ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第三十四條ニ左ノ二項ヲ加フ

第八條、第三十二條又ハ第三十六條ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議申立期間、異議ノ決定確定セサル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行フコトヲ得ス

府縣會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十六條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メ得ヘキ場合ニ於テハ第二十九條第二項及第三十一條ノ規定ヲ準用ス

第三十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條中「會議ニ列席シ及發言スルノ權」ヲ「會議ニ參與スルノ權」ニ改ム

府縣會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無ニ關シテハ府縣會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除ク外府縣參事會其ノ異議ヲ決定ス

- 一 禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ
- 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ宣告確定シタルトキ
- 三 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

第七十七條中「內務大臣ノ許可ヲ得」ヲ削ル

第七十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ審査ニ付シタル場合ニ於テ府縣參事會意見ヲ述ヘサルトキハ府縣知事ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ議案ヲ府縣會ニ提出スルコトヲ得

第八十條第二項中「事務ノ一部」ノ下ニ「府縣ノ官吏吏員ニ委任シ又ハ」ヲ加フ

第八十二條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ同條中「前項」ヲ「第一項」ニ改ム
前項ノ取消處分ハ府縣會又ハ府縣參事會開會中ニ非サルトキハ之ヲ告示スヘシ

第三百三條ニ左ノ一項ヲ加フ

勅令ニ別段ノ規定アル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ費用ヲ市ニ分賦スヘシ
第六六條中「其ノ法人タルトキ亦同シ」ヲ削ル

第六十五條中「第百三條第二項」ヲ「第百三條第二項又ハ第三項」ニ改メ「徵收」ノ下ニ「竝夫役及現品ノ賦課」ヲ加フ

第六十六條 府縣稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日没マテノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

府縣稅、使用料、手数料、夫役又ハ現品ニ代フル金錢、過料其ノ他ノ府縣ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

急迫ノ場合ニ於テ夫役又ハ現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ履行ヲ爲ササルトキハ更ニ之ヲ金額ニ換算シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

第二項ノ規定ニ依ル督促又ハ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限マテニ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スヘシ

第二項及第三項ニ規定スル府縣ノ徵收金ノ先取特權ノ順位ハ國ノ徵收金ニ次クモノトス

府縣ノ收入金及支拂金ニ關スル時効ニ付テハ國ノ收入金及支拂金ノ例ニ依ル

府縣知事ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員カ第四項ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ規定ニ依ル處分ニ係ル差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第六十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得

第六十八條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ第八十二條第二項ノ規定ニ依リ告示ヲ爲シタル場合ニ於テハ告示ノ日ヲ以テ處分ヲ受ケタル日ト看做ス

第三百三十三條中「手数料」ヲ削ル

第三百二十八條第三項ヲ左ノ如ク改ム

沖繩縣ニ於テハ第十三條中二十日トアルハ三十日、七日トアルハ十日、第十五條中五日トアルハ十日、第三十一條中十日トアルハ二十日、二十日トアルハ三十日、第三十四條及第五十一條中十四日トアルハ二十五日トス

第三百二十九條 島司ヲ置ク地ニ於テハ本法中郡ニ關スル規定ハ島嶼ニ、郡長ニ關スル規定ハ島司ニ、郡役所ニ關スル規定ハ島廳ニ之ヲ適用ス

町制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ、町村吏員ニ關スル規定ハ町村吏員ニ準スヘキモノニ、町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

附則

本法中選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第九條乃至第十二條ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

北海道會法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十年三月十九日

衆議院議長 奧 繁三郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔小字ハ衆議院ノ修正、ハ同削除ノ符號ナリ〕

北海道會法中改正法律案

北海道會法中左ノ通改正ス
第一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

選舉區ハ北海道廳支廳長管轄區域及市ノ區域ニ依ル

北海道廳長官ハ北海道會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ

依ル選舉區ヲ分テテ數選舉區ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選舉區ヲ分ツ場合ニ付テ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子二年以來北海道内ノ同一市町村内ニ住所ヲ有シ二年以來其ノ市町村ノ費用ヲ負擔シ且北海道内ニ於テ一年以來直接國稅ヲ納ムルトキ又ハ北海道内ニ於テ一年以來土地ヲ所有スルトキハ北海道會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納稅ト看做ス

家督相續ニ依リ土地ヲ取得シタル者ニ付テハ被相續人ノ所有シタル期間ヲ以テ其ノ者ノ所有シタル期間ト看做ス

土地所有ノ期間ハ所有權ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ之ヲ起算ス

確定名簿ニ登錄セラレタル者ハ其ノ名簿調製期日後選舉權ノ納稅要件又ハ土地所有要件ヲ闕クニ至リタル場合ト雖其ノ確定名簿據置ノ期間内仍選舉權ヲ有ス

本條ニ於テ土地ト稱スルハ耕地、宅地及海産干場ヲ謂フ

第四條 本法ノ適用ニ付テハ町村ノ役場事務ヲ共同處理スル町村組合又ハ一戸長役場ノ所轄ニ屬スル數町村ハ之ヲ一町村、其ノ町村組合役場又ハ戸長役場ハ之ヲ町村役場、其ノ町村組合管理者又ハ戸長ハ之ヲ町村長ト看做ス

第五條中〇「三年」ヲ「二年」ニ改ム

第六條 削除

第七條中「重役」ヲ「役員」ニ改メ同條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ役員トハ取締役、監查役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

第八條 北海道會ハ法令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項ノ外北海道地方費ニ關シ左ノ事項ヲ議決ス

- 一 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 決算報告ニ關スル事
- 三 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、北海道地方稅及夫役

現品ノ賦課徵收ニ關スル事

四 不動産ノ處分並買受及讓受ニ關スル事

五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

七 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九條 北海道參事會ハ北海道廳長官、北海道廳高等官二人及名譽職參事會員七人ヲ以テ之ヲ組織ス

北海道廳高等官ニシテ北海道參事會員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命ス

第十條 北海道參事會ノ職務權限左ノ如シ
一 北海道會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 北海道會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ北海道廳長官ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ北海道會ニ代リテ議決スル事

三 北海道廳長官ヨリ北海道會ニ提出スル議案ニ付北海道廳長官ニ對シ意見ヲ述フル事

四 北海道會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五 北海道地方費支辨工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 北海道地方費ニ係ル訴訟訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

七 其ノ他法令ニ依リ北海道參事會ノ權限ニ屬スル事項

第十一條中「北海道會」ノ下ニ「及北海道參事會」ヲ加フ

第十二條及第十三條中「北海道會」ヲ「北海道參事會」ニ改ム

第十四條 府縣制第五條、第六條第五項第六項、第八條乃至第三十八條、第四十條、第四十二條乃至第六十四條、第六十六條、第六十七條、第六十九條乃至第七十四條、第七十九條、第八十二條乃至第八十五條、第一百二十七條乃至第二百二十九條、第三百一十一條、第三百三十五條及第三百三十六條ノ規定ハ之ヲ準用ス但シ其ノ規定中郡トアルハ北海道廳支廳長管轄區域トシ、郡長トアルハ北海道廳支廳長トシ、郡役所トアルハ北海道廳支

廳トシ、町村長、町村役場トアルハ北海道一級町村制及北海道二級町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戶長、戶長役場トシ、其ノ第三十一條中第六條第九項トアルハ本法第七條第二項トシ、其ノ第七十三條中第六十八條第二トアルハ本法第十條第二號トス

第十八條 本法ハ北海道廳根室支廳管内占守郡、新知郡、得撫郡及色丹郡ニハ勅令ヲ以テ之ヲ施行スル迄之ヲ施行セス

第十九條ヲ削ル

附則
本法中選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條ノ規定ニ依リ準用スル選舉ニ關スル府縣制ノ規定ハ次ノ府縣會議員ノ總選舉ニ付適用セラルル規定ヲ謂フ

本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ニ關スル期日又ハ期間ニシテ本法ニ依リ難キモノハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

北海道參事會ノ權限ニ屬スル事項ニシテ本法施行ノ際急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ル迄ノ間北海道廳長官之ヲ行フ

北海道會又ハ北海道參事會ノ議決ヲ要スル事項ニシテ從前ノ規定ニ依リ北海道廳長官ノ爲シタルモノハ本法ニ依リ北海道會又ハ北海道參事會ノ議決ヲ經タルモノト看做ス

本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル異議、訴訟又ハ訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

北海道地方費法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十年三月十九日

衆議院議長 奧繁二郎

貴族院議長 公爵徳川家達

北海道地方費法中改正法律案

北海道地方費法中左ノ通改正ス

第二條 北海道地方稅ニ關シテハ法律勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ

外府縣稅ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條 段別割ハ地租ヲ賦課セサル土地ノ所有者ニ對シテハ其ノ土地ノ民有ニ歸シタル年ノ翌年ヨリ二年間之ヲ賦課スルコトヲ得ス

第四條 削除

第五條 削除

第七條 削除

第八條ノ二 北海道廳長官ハ北海道地方費ノ行政ヲ擔任ス

第八條ノ三 府縣制第七十五條乃至第七十七條、第八十條、第八十一條、

第八十八條乃至第一百一條、第一百三條第二項第三項、第一百十二條、第一百

五條第二項乃至第五項、第一百十六條第二項乃至第九項、第一百十七條乃至

第一百二十六條、第一百二十七條乃至第一百三十條及第三百三十二條乃至第三百

十六條ノ規定ハ之ヲ準用ス

第八條ノ四 第二條及前條ノ規定ニ依リ準用スル府縣制ノ規定及府縣稅ニ

關スル規定中郡島ノ官吏吏員トアルハ北海道廳支廳ノ官吏吏員トシ、町

村、町村會、町村長、町村吏員トアルハ北海道一級町村制及北海道二級

町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戶長役場ノ所轄區域、總代人會、戶長、

戶長役場吏員トス

第十條及附則ヲ削ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

從前ノ規定ニ依リ定メタル段別割ハ本法ニ依リ之ヲ定メタルモノト看做ス

北海道會又ハ北海道參事會ノ議決ヲ要スル事項ニシテ從前ノ規定ニ依リ北

海道廳長官ノ爲シタルモノハ本法ニ依リ北海道會又ハ北海道參事會ノ議決

ヲ經タルモノト看做ス

本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル異議、訴願又ハ訴訟ニ關シテハ仍從前

ノ例ニ依ル

郡制廢止ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十年三月十九日

衆議院議長 奧 繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

郡制廢止ニ關スル法律案

第一條 郡制ハ之ヲ廢止ス

第二條 郡制廢止ノ爲郡又ハ郡組合ニ屬スル營造物及事業ノ處分並權利義

務ノ歸屬ニ付必要ナル事項ハ關係府縣、郡、郡組合、町村、市町村組合

及町村組合ノ府縣會、郡會、郡組合會、町村會、市町村組合會及町村組

合會ノ意見ヲ徵シ主務大臣之ヲ定ム

本法ニ依リ郡又ハ郡組合消滅スル場合ニ於テハ郡又ハ郡組合ヲ當事者ト

スル訴訟ノ手續ハ訴訟ノ目的タル權利義務ノ歸屬者又ハ相手方カ之ヲ受

繼ク迄中斷ス

前二項ノ外郡制廢止ニ付必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第一條施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第二條ノ處分及歸屬ニ關スル

手續終了シタル府縣ニ付テハ內務大臣ハ其ノ施行ノ期日前別ニ施行ノ期日

ヲ定ムルコトヲ得

衆議院議員選舉區ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十年三月十九日

衆議院議長 奧 繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議員選舉區ニ關スル法律案

郡ノ區域ニ變更アルモ衆議院議員ノ選舉ニ關シテハ仍從前ノ區域ニ依ル但

シ一選舉區内ニ於ケル郡ノ區域ニ變更アリタルトキ又ハ市町村ノ境界ノ變

更アリタル爲郡ノ區域ニ變更アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ島司又ハ北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ町村ニ準スヘキモノハ之ヲ町村ト看做ス

前三項ノ規定ニ依リ從前ノ區域ニ依ル選舉ニ關シ衆議院議員選舉法ノ規定

ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

本法ハ郡制廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 一括シテ説明ヲ申上ゲマス、府縣制中改正法律案、竝ニ北海道會法及ビ北海道地方費法中改正法律案、此三案ハ何レモ時代ノ進運ニ伴ヒ、文化ノ進歩ニ伴ヒマシテ選舉權ノ擴張ヲ致シタイノガ主眼デゴザイマス、ソレニ伴ヒマシテ同時ニ選舉ノ手續ニ改正ヲ加ヘ、若クハ事務ノ簡捷ヲ圖ル等ノコトデゴザイマスルガ、骨子ハ選舉權ノ擴張デゴザイマス、先ヅ府縣制ノ方カラ申上ゲマスレバ、現在府縣會議員ノ選舉有權者ハ御承知ノ如ク直接國稅三圓以上ヲ納ムル人ニ相成ツテ居リマシテ、其數ガ今日二百四十三萬餘人デゴザイマス、之ヲ我國ノ人口ニ比較イタシマスルト云フト、百人ニ付テ四人四分デゴザイマス、現在ノ制度ガ明治三十二年ニ立テラレマシテ、其當時デゴザイマスルト、人口百ニ付テ有權者ノ割合ハ四人五分デゴザイマシタ、併シ今日ハ四人四分ニナツテ、却ツテ減少イタシテ居ル有様デゴザイマス、之ヲ衆議院議員ノ有權者數三百餘萬人ニ比較イタシマシテモ却ツテ府縣會議員ノ有權者ノ方ガ少ナウゴザイマス、現制度立テラレマシテカラ二十有餘年ノ經過ヲ經テ文化ノ進シタノニ比較シテ考ヘマスルト、此際相當ノ擴張ヲ致スト云フトハ當然ノコトト考ヘマスル、ソレ故ニ今日マデ直接國稅三圓以上ヲ納ムル者トアリマシタル其稅額ノ制限ヲ削リマシテ、苟モ直接國稅ヲ納ムル者ナラバ宜シイト云フト程度ヲ引下ゲマシタ、其結果今日ノ有權者二百四十三萬人ハ五百一萬餘人ニ相成リマスル、人口ニ比較イタシマスルト、丁度百人ニ付テ九人、即チ今日ノ倍ニ増加イタシマスルノデアリマス、選舉權ノ擴張ト同時ニ被選舉權ノ擴張ヲモ致シマシタ、今日マデハ選舉權ト被選舉權トニ等差ヲ設ケテゴザイマシタガ、今日ノ時代ニ於テハ最早其ノ等差ヲ設ケ置クノ必要ハ無イト考ヘマシテ、選舉權者ハ同時ニ被選舉權者タリト云フトニ改メマシタノデゴザイマス、次ニ北海道會法、竝ニ北海道地方費法ト申シマスルノハ明治三十四年ニ制定セラレマシタ、其當時ノ人口ハ百萬デゴザイマシタガ、今日ハ二百四十萬ニ相成リマス、地方ノ經濟ハ其當時ニ百十六萬圓デゴザイマシタガ、今日ハ七百四十七萬圓ニ相成リマス、人口ハ二倍イタシマスルシ、地方ノ經濟ハ七倍ニナツテ居ルノデ、逆モ同日ノ論デハゴザイマセス、是亦相當ニ改正ヲ加ヘ、又選舉權ノ擴張ヲ致シマスルト云フトガ當然ノコトダラウト考ヘマス、ソレ故ニ北海道會法ニ於キマシテ選舉權、被選舉權ヲ内地ノ府縣ト同様ナ基準ノ下ニ擴張イタスコトニ致シ

マシタ、ソレニ加フルニ北海道會ノ權限ガ今日マデハ内地ノ府縣ニ比較イタシマスト違ニ縮小セラレテ居リマシタガ、最早内地ト同様ニ致スモ宜シカラウト云フヲ以テ其權限ヲ擴張イタシマシタ、加フルニ北海道ニ於キマシテハ、今日マデ内地ノ府縣ニ於ケルガ如キ參事會ノ制度ガゴザイマセス、是モ今日ニ於テハ内地同様ニ致スコトガ當然ナリト考ヘマシテ、新ニ道參事會ヲ設ケルコトニ致シマシタ、要スルニ大體府縣制ニ則リマシテ、同様ナル取扱ヲ致シタイ考デゴザイマス、而シテ此改正ノ結果有權者ノ數ハ現行法ニ比較イタシマシテ二倍一分餘ニ相成リマス、内地ニ於テ二倍、殆ド同様ノ増加デゴザイマス、地方費法ノ改正ハ是マデ單行勅令ヲ以テ定メラレテ居リマシタノヲ、單ニ統一イタシマスル考ト、大體ガ府縣制ニ則リマシテ取扱ヒタイ考トヲ以テ、改正ヲ致シマシタ次第デゴザイマス、次ニ郡制廢止法律案、竝ニ衆議院議員選舉區ニ關スル法律案、是ハ相關聯イタシタモノデゴザイマシテ、先ヅ衆議院議員選舉區ニ關スル法律案ニ付テ申上ゲマスレバ、郡制廢止ノ結果、郡ハ單純ナル行政區劃トナリマスルノデゴザイマシテ、從ツテ場合ニ依テハ郡ノ區域ノ變更ハ、今後ハ法律ヲ要シナイガ爲ニ勅令ヲ以テ適宜之ヲ變更シ得ルコトニ相成リマス、左様ナコトニナリマシタ結果、衆議院議員選舉法別表ノ選舉區ニ變動ヲ來スヤウナコトニ相成リマシテハナルマイト考ヘマシテ、此ノ衆議院議員選舉法ノ選舉區ハ、郡制廢止後郡ノ區域ニ變更ガゴザイマシテモ、原則ト致シマシテハ何等ノ異動ヲ及ボサズ、從來ノ區域ニ依ルコトニ致シタイト云フ考ヲ以テ、提出イタシマシタ次第デゴザイマス、擬郡制廢止ニ付テ申上ゲマスレバ、此案ハ既ニ今日マデ二回程衆議院ヲ通過イタシマシタ、今回ハ三回目デゴザイマス、第一回ノ時ハタシカ委員ニ付託ニナリマシテ、其儘餘日モゴザイマセナカッタト考マスル、二回目ノ時ハ本院ニ於キマシテモ、段々御議論モゴザイマシタ、要スルニ色々ゴザイマシタ中ニ、郡制施行セラレテ未ダ十分ナル年月ヲ經ザル今日デアル、依ツテ其ノ十分ナル成績ノ如何ヲ見ルト云フトハ尙時日ヲ籍シテ、然ル後ニ決定ヲスルガ最モ適當デアラウト云フ理由ノ下ニ否決ヲセラレタト記憶イタシテ居リマス、爾來今日マデノ郡ノ發達ノ様子ヲ調査イタシマスルニ、依然トシテ成績ノ見ルベキモノハ甚ダ少ナイノデゴザイマス、其狀況ヲ經費ノ點カラ申上ゲテ見マスナラバ、大正九年度ノ郡費歲出豫算總額ハ三千百餘萬圓デゴザイマス、之ヲ同年度ノソレト、府縣歲出豫算總額ノ中デ北海道ヲ除キマシタルモノダケニ付

テ申シマスルト二億六百餘萬圓デゴザイマス、即チ府縣ノ歲出ニ比較イタシマスレバ一割五分ニ當リマス、之ヲ同年度ノ市區町村歲出豫算ニ比較イタシマスルト云フト、一方ハ五億四千七百餘萬圓ニナリマスノデ、郡費ノ歲出ハ僅ニ五分ニ相當スル譯デゴザイマス、此點ヲ比較イタシマシテモ郡ノ事業ハ府縣町村ノ事業ニ及バザルコトノ遠イノハ明カデゴザイマス、殊ニ郡費ノ中テ事業費、補助費等ノ類ヲ差引マシテ、眞ニ郡ノ事業費ト見ラレベキモノヲ取調ベマスニ、大正九年度ニ於テ千八百餘萬圓デゴザイマス、之ヲ一郡ニ平均イタシマスルト約三萬五千圓デゴザイマス、此金額ハ今日町村ニ於キマシテモ其ノ事業費ガ四五萬圓ニ上ボルモノハ少ナクナイ例デゴザイマス、即チ一郡ノ事業ガ一町村ノ事業ニ尙ホ及バナイモノガ多イト申シテ宜シイノデゴザイマス、加之全國各郡ニ互ツテ調査イタシマスルニ、事務費、補助費ノ外、事業費ト致シマシテ、經常費歲出豫算ノ總額ハ、總額僅ニ五千圓未滿ニ止ツテ、即チ言換ヘマスレバ、事業トシテ殆ド見ルベキモノノナイト云フ郡ノ數ガ、全國五百三十七郡ノ中百二十七郡ゴザイマス、斯ノ如ク郡ノ事業ハ誠ニ見ルベキモノハナク、即チ微々トシテ發達ノ甚ダ鈍イ有様デゴザイマスガ、獨リ其事業ガ少ナイノミナラズ、内容カラ申シマシテモ其經營上ニハ十分ナリト申シ兼ネル點モ、段々アルヤウニ考ヘマス、教育ノ方面カラ申シ、或ハ産業ノ方面カラ申シマシテモ、自然郡ト致シマシテハ、待遇ノ薄イト云フコトモゴザイマス、又郡デアアルガ爲ニ優良ナル人ヲ招キ難イト云フコトモアリマスノデ、ドウモ其内容モ之ヲ府縣ナリ或ハ大ナル市町村ニ較ベマシテ、却ッテ如何デアラウカト考ヘルノデゴザイマス、府縣若クハ大ナル市町村デゴザイマスレバ、教育ニ致シマシテモ、勸業ニ致シマシテモ、土木其他各般ノ事業ニ致シマシテモ、竝ビ行ハレマス、其費用ハ各數萬圓乃至數十萬圓ノ多キニ上ツテ居ルノデゴザイマス、自治體トシテノ實績ヲ舉ゲテ居リマスコトハ、郡ニ於テ殆ド見ルベキコトノ出來ナイ状態デゴザイマス、要シマスルニ今日郡制ガ施行セラレテ以來、其既ニ長イモノハ二十年ニモ相成リマスガ、自治體トシテ相當ナル成績ヲ舉ゲテ居ルト云フモノハ、稀ナル有様デゴザイマス、此點カラ申シマシテモ郡自治體ヲ存置スル必要ハナイト考ヘマスノデゴザイマラスガ、例ヘバ斯ノ如ク何故郡ナル自治體ガ十分ナル事業ヲ舉ゲテ行クコトガ出來ナイカト申シマスニ、私ノ見ル所ヲ以テ致シマスレバ、第一ニハ郡ノ自治制度ハ之ヲ府縣若クハ町村ニ比較イタシマスレバ、遅レテ制定ラセラレ

タ制度デゴザイマス、既ニ府縣市町村ニ於テハ、明治十一年頃カラソレノ自治ノ事務ヲ行ハレマシテ、早ク自治體トシテ認メラレタノデゴザイマスガ、之ニ比較イタシマシテ郡ノ自治體ハ明治二十三年デアリマシタカ、或ハ其以後ニ於テ始メテ自治トシテ認メラレタヤウニナツタノデゴザイマス、其關係ヨリ致シマシテ地方ノ公共事業ノ大ナルモノハ府縣ガ之ヲ經營シ、其小ナルモノハ市町村ガ之ヲ經營スルノデアリマシテ、遅レテ茲ニ郡ナル自治體ガ出來マシタ所デ、所謂府縣ニモ屬セザル殘ツタ仕事ヲ拾ッテヤルヤウナ立場ニナリマスノガ、郡ノ仕事トシテ發達セヌ所以デハナイカト私ハ考ヘマス、尙ホモウ一ツノ原因ハ郡ハ……郡ナルモノハ府縣ト町村トノ間ニ在イタシマスル所ノ中間ノ團體デゴザイマス、サウシテ其上級ナル所ノ府縣ノ團體ハ割合ニ面積、戸口等モ少ナイノデアリマシテ、郡ニ接近ヲ致シテ居リマス其下級團體タル所ノ町村ハ、割合ニ大キナ團體デアリマシテ、又郡ニ接近ヲ致シテ居リマス我國ノ今日市町村ノ數ハ一萬二千有餘ト記憶イタシマスガ、郡制施行ノ際ニ其數ハ七萬ゴザイマシタ、之ヲ合併セラレテ一萬三千ト其當時相成リマシタモノデゴザイマス、之ヲ試ミニ英吉利、獨逸等ノ上級地方自治體ト比較イタシマスルト云フト、我國ノ町村ハ獨逸ノ町村ニ比較イタシマシテ、面積人口共ニ約十倍ニナツテ居リマス、英吉利ノ郡部ノ「バリシ」ト比較イタシマスルト云フト、約五倍ニ當ツテ居リマス、即チ我國ノ町村ハ之ヲ英獨逸ノ町村ニ當ルモノニ比較イタシマスルト云フト、今申上ゲマスル如ク、數倍ノ強大ナル自治團體デアリマス、而シテ府縣ハ、府縣ノ自治團體ハ之ヲ獨逸ノ上級團體ニ比較イタシマスルト云フト、遙ニ其力ハ微弱ナルモノデゴザイマス、之ヲ例ヘテ申シマスルナラバ、英獨逸ニ於テハ上級ノ自治團體ト下級ノ自治團體トノ間ニハ、相當ニ間隔ガアリマシテ、即チ天井ハ高ク床ハ低イノデゴザイマス、我國ニ於テハ其狀況ガ反對デ、是ニ比較イタシマスルト反對デアリマシテ、床ガ高ク天井ガ低イト申シテ宜シイ有様ダト考ヘマス、此間ニアツテ、郡ナル自治團體ガ後ヨリ生レ出デテ、而シテ活動ヲ致スト云フニハ其餘地ガ十分ナラズト云フコトハ明カナコトデアリマス、左様ナ爲ニ、我國ニ於テハ郡ハ十分ニ發達シ得ナイモノト考ヘマス、今日我國ノ市町村ニ於テ經營イタシテ居リマス所ノ公衆衛生ノ事務デアリマス、下水等ノ經營デアアル、諸道路、公園、浴場、墓地、普通教育ニ關スル事務、救貧事務其他ノ事柄ガ、我國ニ於テハ市町村ヲ專ラ經營イタシテ居リマスガ、彼ノ國ニ於テ

ハ、郡ニ於テ是等ノ仕事ヲ行ッテ居ルモノガ多イノヲ見マシテモ、今申上ゲマ
スルコトハ、蓋シ誤リデナカラウカト考ヘマスルノデス、畢竟今日ノ現在ニ照
シ、又制度ノ上カラ論ジマシテ、十分ナ自治體トシテ發達ノ餘地ガ少ナイト考
ヘマスルガ、之ヲ推シテ將來ニ及ビマスルニ、到底十分ナル發達ヲ期待スルコ
トハ出來ナイト考ヘマスル、果シテ今日ノ實況ニ照ラシ、之ヲ將來ニ推シテ
考ヘルト、郡ナル自治體ガ發達ハ、大ニ期待スベカラザルモノデアルト致シ
マスレバ、寧ロ今日之ヲ廢止イタシマスルコトハ、制度ノ簡明ヲ期シ、地方
ノ府縣、若クハ市町村ニ自治團體トシテ活動セシムル上ニ於テ却ッテ宜シイト
信ジマスルコトデゴザイマス、即チ今日郡ガ經營イタシマスル事業ノ上デ、
其大ナルモノハ之ヲ府縣ニ移シ、其小ナルモノハ利害關係ノ一層切實ナル觀
念ヲ有スル所ノ町村ニ移シマシタガ、地方ノ福利事業ヲ經營セシムル上ニ
於テ適當ナリト考ヘマスルコトデゴザイマス、又今日マデ郡ニ於テ經營致シ
マシタ事業ヲ、中ニハ將來之ヲ府縣ニ移ス考ヲ以テ經營スルモノモ無キニシ
モナイ狀況デゴザイマスルガ、從來郡ノ事業デアリマシテ、府縣會若クハ郡
會ノ建議ニ依リマシテ、之ヲ府縣ノ經營ニ移シタモノモ少ナクナイノデゴザ
イマス、獨リソレノミナラズ、府縣ノ經營ニ移シテ欲シイト云フ希望ヲ以テ
建議サレテ居ル數モ少ナクナイ有様デゴザイマスルガ、即チ是等ハ必ズシモ
郡ナルモノノ存在ヲ必要トセスノミナラズ、府縣ノ事業ト郡ノ事業トハ元來
明カナル分界モ其間ニ引クコトガ出來ナイト云フコトモ、明カナコトデア
ヤウニ考ヘマス、折角有ルモノヲ廢スルニモ及バヌコトデハナイカト云フヤウナ
ノデアルカ、折角有ルモノヲ廢スルニモ及バヌコトデハナイカト云フヤウナ
說モ無キニシモゴザイマセヌガ、前申上所ノ考ヲ以テ判斷致シマスレバ、兎
モ角無クモガナノ制度ヲ強ヒテ維持シテ、地方ノ自治團體ヲ三階級ニシテ置
ク必要ガ切實ニナイ以上ハ、寧ロ之ヲ廢シテ二階級ニ致スト云フコトハ、制
度ノ簡明ヲ期スル上ニ於テ適當ナルコトト私ハ考ヘマス、而シテ依テ以テ郡
ノ事務ノ簡捷ヲ圖ルコトガ出來マス、或ハ郡會ノ選舉ノ如キモ之ニ依テ省ク
コトガ出來ル、又郡會、郡參事會ニ關スル仕事モソレニ依テ省クコトガ出來
ルノデアリマス、制度ヲ簡明ニシ、事務ヲ簡明ニ致スコトハ確ニ出來得ルコ
トト考ヘマス、次ニ此ノ郡制ノ廢止ハ、所謂郡ノ自治體ヲ廢スル次第デゴザ
イマシテ、是レデ郡ノ行政區劃ヲ變更シ、若クハ郡役所ヲ廢スルト云フヤウ
ナコトトハ、勿論關係ノ無イ次第デゴザイマス、唯併シ茲ニ郡ノ自治體ナル

モノガ廢セラレタトスレバ、從ッテ殘ル所ノ郡行政區劃ノ變更ハ命令ヲ以テ出
來得ルコトニナル、事ガ容易クナルト云フコトハ明カデゴザイマスルガ、從ッ
テ或ハ將來交通狀態等ノ發達ニ伴ヒマシテ、若シ行政區劃ヲ整理シ、併セテ
郡ノ合併ヲ行ハムトスルナラバ、是亦郡ヲ自治體トシテ存在シテ置クヨリハ、
其實行ハ困難デナイト云フコトニ相成ルノデゴザイマス、尙ホ今日郡ノ自治
體ガ存シテ居リマスル以上、其ノ監督行政官タル所ノ郡長ニ於キマシテハ、
所謂郡ノ自治事務ニ力ヲ殺ガレル結果ト致シマシテ、宜イ加減ニ忙シイ
ノデアリマスガ、郡制廢止セラレタ曉ニ於テハ、專ラ町村ノ指導誘掖ニ力ヲ
用ヒ得ルト云フ利益ハアルト考ヘマス、其外ニ今日郡ノ經營スベキ事業ヲ府
縣若クハ相當ナル市町村ヲシテ經營セシムルト云フコトハ、却ッテ事業ノ成績
ヲ舉ゲル上ニ於テ宜シカラウト云フ考ヲ有ッテ居リマス、ノミナラズ御承知ノ
如ク、今日郡ノ財政ハ町村ニ分賦イタシマシテ、其財源ヲ得ルノデアリマス
ガ、其結果トシテ常ニ町村側ニ於テハ、町村ノ經營ヲ致スノニ思ハザル郡費
ノ分賦ヲ受クル結果トシテハ經營上少カラズ迷惑ヲ致スト云フ有様デゴザイ
マス、茲ニ郡制ヲ廢止セラレ、郡費ノ分賦ナルモノガ無クナリマスレバ、町
村ノ財政ヲ按排イタシマスニハ、全ク町村ノ考ヲ以テ爲シ得ルノデアリマス
ノデ、ココラハ却ッテ將來ニ於テ町村ノ財政ニ伸縮力ヲ與ヘ、町村自治ノ活動
ヲ促ス上ニ於テ、少カラズ利益アルコトト考ヘマス、而シテ茲ニ郡制ヲ廢止
イタシマスルト云フト、之ニ付テ往々唱ヘラレテ居ル所ノ反對論モゴザイマ
スルカラ、之ヲ二三茲ニ申上ゲテ置キマスル方ガ宜シカラウト考ヘマスノハ、
郡制ヲ廢止イタシマスレバ、從來經營イタシテ居リマス所ノ郡ノ事業ニ一大
頓挫ヲ來タシテ、地方ノ不利不便ト相成リハセヌカト云フ議論ガゴザイマス、
是ハ一應御尤ナルコトデハゴザイマスルガ、之ヲ實際カラ考ヘマスルニ、先
程モ申上ゲマシタ如ク、郡ノ事業ノ主ナルモノハ之ヲ府縣ニ移シ、大ナルモノ
ハ之ヲ府縣ニ移シ、其小ナルモノハ町村ニ移シテ引繼ギ得ルト考ヘマスルノ
デ、何等事業上ニ頓挫ヲ來ス憂ヒハ無イノデゴザイマス、或ハ制度ノ上デハ左
様ナコトモ出來ヤウガ、併シ今日市町村並ニ府縣ノ財政モ困難ヲ感ジテ居ル
ノデアルカラ、此上郡ノ事業ヲ引受ケル餘地ハ無イト云フコトノ議論モ茲ニ
起リマスルガ、此邊ハ今日郡ノ事業費ヲ……收入ヲ差引イテ專ラ其負擔ニナ
リマスル費用ヲ調べテ見マスルト云フト、全國デ僅ニ千三百餘萬圓デゴザイ
マス、此千三百餘萬圓ノ費用ガ府縣若クハ町村ニ移サレル譯デアリマスガ、今

日之ヲ府縣若クハ町村ノ力ニ比較シテ見マスルト、誠ニ僅少ナル部分デアリマスノデ、敢テ此點ハ殊更計算ニ上ホセテ心配スル必要ハゴザイマセヌ、今日ノ府縣ナリ市町村ノ財政力カラ申上ゲマスレバ、十分ニ支辨シ得ル所ノ力ガアルト申上ゲテ宜シイト考ヘマス、ノミナラズ前申上ゲマシタル如ク郡費ナリモノハ抑、町村ニ之ヲ分賦イタシマシテ、即チ市町村民カラ徵收スルノデアリマシテ、郡費ノ負擔ヲ一方ニ於テハ免カレ得ルコトニナルノデアリマスカラ、地方ノ負擔ノ上カラ申セバ、大體ニ於テハ茲ニ幾分節約ヲ見ルコトアリト雖、廢止ノ結果地方費ノ増加スルコトハ斷ジテ無イト申上ゲテ宜シイト考ヘマス、此經費ハ幾ラノ經費ヲ節約シ得ルト云フコトニ付テハ、茲ニ明ニ申上ゲ兼ネマスルガ、机ノ上デ調べマスレバ、少ナクトモ數百萬圓ノ減額ハ見得ルト考ヘテ居ルノデアリマス、併ナガラ郡制廢止ニ付テハ、此點ニ私ハ餘リ重キ力ハ置イテ居リマセヌ、置イテ居リマセヌガ、斯ク郡ナル自治體ガソレハ門戸ヲ張テ仕事ヲ致ス以上ハ、之ヲ廢シタ方ガ明ニ地方經濟上ニ節約ヲ加ヘルト申上ゲテ差支ナカラウト考ヘルノデアリマス、或ハ郡ノ事業ハ成程少ナイカモ知レナイガ、其中ニハ適當ナルモノガアルデアラウカラ、ソレハ尙ホ郡ヲ存置イタシテ經營セシムルノモ宜シクハナイカト云フ論モ無イデハゴザイマセヌ、サウ云フ又實際ソコニ嵌ル事情ノ下ニアルモノモ無イデハゴザイマセヌ、併シ大體ヲ申シマスレバ、全國ヲ通ジテ普遍的ニ郡ヲシテ經營セシメナケレバナラス仕事ガ今日ノ上ニ於テハゴザイマセヌ、即チ二ノ例外アルガ爲ニ強ヒテ全國ニ互ッテ郡制ヲ存置スル必要ハ此點カラ申シテモゴザイマセヌ、其愈、必要アルモノハ之ヲ組合ニ移シテ處理セシムル途ガアルノデゴザイマスカラ、制度ト致シマシテ、廢止スルコトハ適當ナリト考ヘマスノデアリマス、或ハ郡制ヲ廢止イタシマシタ結果ハ、之ヲ府縣ニ移シ市町村ニ移シ得ナイモノモ中ニハゴザイマス、ソレ等ノモノハ如何ニシテ處理シテ行クカト申セバ、ソレハ適當ナル範圍ニ於テ町村ニ組合ヲ設ケマシテ處理セシメマスレバ、何等ノ差支ナイコトデゴザイマス、併シ左様ニシテ、若シ其結果ト致シテ組合ガ多ウ過ギルヤウニナレバ、却ッテ地方ノ制度ヲ複雜ニシハシナイカト云フ議論モ茲ニ起ッテ來ルノデアリマスガ、第一左様ナ多クノ組合ガ出來ルトモ思ヒマセヌガ、出來マシテモ必要ニ應ジテ組合ヲ設置スルト云フコトハ、是ハ自然ノコトデゴザイマスカラ、強チ之ヲ抑ヘル必要ハナイト考ヘマスルノミナラズ、現在ニ於テモ三千有餘ノ町村組合竝ニ千九百ノ水利組合ガ存在シテ居

テ、適當ニ事業ヲ遂行イタシテ居リマスル今日デアリマスルカラ、此上必要ニ應ジテ幾多ノ組合ノ設置ヲ見マスルト云フコトハ、大體ニ於テ何等ノ差支ナイコトデゴザイマス、以上述べマシタル所ニ依リマシテ、今日郡制ヲ廢止イタシマスルコトハ、最モ適當ナリト考ヘル次第デアリマスガ茲ニ最後ニ御斷リ申上ゲ、御願ヒ申上ゲナケレバナラスト考ヘマスルコトハ、是等ノ法案ハ何レモ我國ノ制度ト致シマシテ、誠ニ重要ナル法案デゴザイマス、斯ノ如キ重要ナル法案ヲ會期切迫ノ今日ニ提出イタシマシテ、御審議ヲ願ヒマスルト云フハ、政府ノ不手廻リ申上ゲルマデモナク、甚ダ不都合ノ次第デゴザイマスガ、之ニ付テ一言ノ申開キガゴザイマセヌ、是ハ一ニ御同情ニ訴ヘマシテ、然ルベク御審議ヲ御願ヒ致スヨリ外ニ仕方ノナイコトデゴザイマス、尤此重要ナル法案ヲ幾多茲ニ御審議ヲ願ヒマスルハ、誠ニ恐縮ナル次第デゴザイマス、併ナガラ又之ヲ大體カラ申シマスレバ事柄ガ極メテ重要デゴザイマスケレドモ、其内容ハ極メテ簡單ナルモノデゴザイマス、即チ目下委員會ニ付託相成リマシテ、御審議中デアリマス所ノ市制町村制ノ改正案ト相俟ッテ、府縣制竝ニ北海道會法ノ改正案ハ、共ニ選舉權ノ擴張ヲイタスノガ主デアアル、此ノ選舉權擴張ハ各案ニ付テ説明ヲ申上ゲマシタ如ク今日ノ時代ニ相當ナル擴張ヲ致スト云フコトハ、蓋シ何人モ議論ノナイ所ノ我國ノ輿論デアアルト申上ゲマシテ差支ナカラウカト信ジマスルガ、而モ既ニ昨年來御承知下サル如ク、新聞紙上デモ色々論評ヲ加ヘラレ來リマシタ今日、凡ソ實際ニ於テハ御承知ヲ願ッテ居ルコトト考ヘマスル、ドウモ今日ノ時代ニ於キマシテ斯ノ如キノ擴張ハ實ニ適當ニシテ止ムヲ得ザルコトト信ズルノデゴザイマスルガ、唯茲ニ此案ニ對シマシテ反對論ガアルト致シマスレバ、即チ之ヲ衆議院ノ討議ノ上ナドカラ申上ゲマシテ、反對論ガアルト致シマスレバ、此ノ御審議ヲ願ッテ居リマスル所ノ選舉權ノ擴張ハ、主義ト致シマシテ納稅ヲ選舉權者ノ要件ト致シテゴザイマス、即チ納稅主義ヲ以テ選舉資格ヲ定ムルコトニ各案通ジテ探テ居リマス、之ニ對シマシテ議論ノアリマスルノハ、世ニ所謂普通選舉論デゴザイマス、納稅主義ヲ全ク撤廢イタシテ或ハ獨立ノ生計ト云フコトデ以テスルカ、若クハ單純ニ獨立ニ男子デアレバ選舉權者タルニ差支ナイト云フ、一言ニシテ申上ゲマスレバ、所謂普通選舉論者ガ、此度ノ擴張ノ程度ヲ以テ足ラズトシテ、非難ヲ加ヘル議論デゴザイマス、是ハ確ニ御參考下サルベキ反對論ト考ヘマスルガ、政府ニ於キマシテハ、曩ニ衆議院議員選舉法改正當時ト同ジャウナ考ヲ以チ

マシテ、今日ノ時勢ニ於テハ納稅主義ヲ撤廢スルコトハ、其當ヲ得ザルモノ
デア、秩序アル進歩ヲ圖ル點ニ於テハ宜シクナイト信ジテ居リマスルコト
デアリマス、尙ホ此ノ選舉權ノ擴張ニ伴ヒマシテ、先日本議場デ申上ゲマシ
タ如ク、市町村ノ選舉ニ於キマシテ級別選舉ヲ或程度マデ改正ヲ致シマシタ、
是ガ尙ホ理想論ト致シテハ全部撤廢スルガ宜シイ、不徹底ナル案ハ宜シクナ
イト云フノガ反對論デゴザイマス、是ハ先日モ申上ゲマシタ如ク私自身モ理
想ト致シマシテハ、級別撤廢ハ何等差支ナイトハ考ヘテ居リマスケレドモ、
兎モ角三十年來我國ノ自治制ノ本ヲ爲シテ居リマシタモノヲ、茲ニ一朝ニ覆
ヘスト云フコトハ、或ハ不慮ノ過失ガナイトモ限リマセヌカラ、先ヅ漸ヲ以
テ進ムノガ今日ニ於テ適當デハアルマイカト云フコトニ更ニ考ヘ直シマシ
テ、此案ヲ提出イタシマシタ次第デゴザイマス、而シテ郡制ノ廢止ニ付マシ
テモ、是亦我國ノ地方制度ノ三階級ヲ二階級ニ致スト云フノデアリマシテ、
誠ニ自治制度ノ上ニ於テ重要ナルコトハ申上ゲルマデモゴザリマセヌ、去ナ
ガラ先程モ申上ゲマスル如ク、衆議院ハ既ニ三回決議ヲ致シテ居リマシテ、
本院ニ於カレマシテハ、尙ホ年處ノ經過ヲ見テ、而シテ存廢ヲ議スルガ當然
ナリトシテ、十年以前ニ其理由ノ下ニ否決セラレテ今日ニ運ンデ居リマスル
ガ、申セバ年來ノ懸案デゴザイマシテ、茲ニ一朝突然トシテ此案ヲ提出スル
ト云フ次第デモゴザイマセヌデ、存廢ノ御意見ヲ御定メ下サルト云フコトハ、
必シモ今開始タ譯デモナイト、是ハ私ノ方デ甚ダ勝手ナコトヲ申上ゲルヤウ
ニ當リマシテ相濟マヌ次第デゴザイマスガ、左様ニ私ハ考ヘモ致シマスル、
且又斯様ナル法案ノ、即チ存廢ヲ議スル如キ法案ハ、之ヲイツマデモ未決ノ
間ニ置キマスルト云フコトハ、地方制度ノ上ニ甚ダ宜シカラヌコトト考ヘマ
スルノデ、今日ノ政府ノ不手廻リニ付マシテハ一言ノ申開キモゴザイマセヌ
ガ、ドウカ事情ヲ御斟酌ヲ願ヒマシテ、相當ナル案ノ歸結ヲ見マスルヤウニ
御審議ヲ煩ズコトヲ得マスルダケノ雅量ヲ御持チ下サイマヌナラバ、誠ニ
此上ナイ仕合セデゴザイマス、特ニ此點ハ終リニ臨ミマシテ御願ヲ申上ゲマ
ス

〔矢口長右衛門君演壇ニ登ル〕

○矢口長右衛門君 唯今内務大臣カラ致シテ郡制廢止ニ對シテ、詳細ナル説
明ガゴザイマシタ、私ハ此ノ郡制廢止ト云フコトニ付マシテ質疑ガゴザイマ
スルガ、併シ唯今述ベラレタコトハ既ニ反對論者マデモ茲ニ想像イタシテ、

サウシテ此利害ヲ述ベラレタノデゴザイマスルカラ、其上ニ質疑ヲスルコト
ハ所謂意見ノ部分ニ屬シマスルカラ、私ハ之ヲ避ケマシテ、茲ニ私ノ解セヌ
事ダケニ付マシテ質疑ヲ致シマス、今郡制ヲ廢シマスルコトニ付マシテ、然
ラバ行政ノ整理ヲドウスルカ、行政區劃ノ更正ハ如何ニスルカ、是ガ本員ノ
是非問ハムトスル所デゴザイマス、假ニ數歩ヲ譲リマシテ、茲ニ郡制廢止ハ
必要ナリト致シマシテモ、郡ノ行政區域ト云フモノヲ更正シマセヌケレバ、
其效用ト云フモノハ甚ダ薄キモノデア、若シ兩者ノ利害カラ申シマシタナ
ラバ、郡制區域ノ更正ヲ先ニシテ、郡制ヲ廢止スルモ決シテ遅カラズト云
フ念慮ガ起ルノデゴザイマス、今日ノ郡制ノ状態ハ、政府當路者ニ於キマシ
テハ十分御調査等ガゴザイマセヌノデスガ、既ニ郡役所ト云フモノガ御承知
ノ如ク明治九年アタリカラ行ハレマシテ、サウシテ殆ド未ダ何等ノ改訂モナ
イ、其後交通ノ便ト云フモノハ非常ニ發達シテ參ッテ、以前ニ非常ニ必要デ
アッタモノモ、今日ハ時ニ其必要ヲ見ヌ、サウ云フ場所ガ間々アルノデゴザイ
マス、假ニ大藏省若クハ内務省ヨリ來ル所ノ總テノ書類等ハ縣廳ヲ經テ、而
シテ直ニ町村ニ行クベキモノヲ、態、遠廻リヲシテ郡役所ヲシテ餘計ノ手數
ヲ掛ケテ、サウシテ更ニ時日ヲ非常ニ費シテ人民ノ手數ト云フヤウナコトガ
多イノデアリマス、尙ホ且ツ郡制ヲ廢止ニナレバ郡役所ノ用ト云フモノハ殆
ド半減スルト云ッテモ宜イ位ニナッテ居ル、サウ云フ場合ニ更ニ此郡ノ行政ト
云フモノ、郡ノ廢合ト云フモノニ何等ノ改定モセヌ、ソレ等ニ何等ノ考慮モ
致サヌデ而シテ茲ニ突如トシテ郡制廢止ト云フコトノ案ヲ出スト云フコト
ハ、甚ダ利害ノ觀念カラ致シテ見ルト、果シテ如何ナルモノカト云フ疑念ヲ
去ルコトガ出來ヌノデゴザイマス、先刻内務大臣ハ追テ其コトモアルダラウ
ト云フヤウナ極ク不確定ナルコトヲ申サレマシタガ、其ノ不確定ナルコトデ
ハ本員等ハ決シテ安心スルコトガ出來マセヌ、固ヨリ茲ニ郡ノ廢合ト云フモ
ノヲ、此處ハドウスル、斯ウスルト云フ明カナ案ヲ立テ、特ニ郡制ヲ廢スル
ナラバ、或ハ其コトヲ認メルノデアアルカモ知レヌケレドモ、唯茲ニ郡制廢止
ノミヲ出シテ、而シテソレ等ノ行政上ノ區劃等ニ付テハ何等ノ更正モセヌト
云フコトハ、其順序ノ上カラ言ッテ、利害ノ上カラ言ッテモ果シテ如何ナルモ
ノデアアルカ、更ニ本員ハ其邊ヲ解スルコトガ出來ヌノデゴザイマス、是等ノコ
トニ對シテハ、如何ナル考ヲ持ッテ居ルノデアアルカ、其邊ヲ承リタイト存ジマ
ス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 唯今ノ御問ニ御答ヲ申上ゲマスルガ、郡制ノ廢止ト、郡役所ノ廢止トハ何等關係ハゴザイマセヌ、郡役所ノ分合ヲ行ハムトスルナラバ、是ハ別ノ見地ヨリ行フベキデアリ、郡制ノ廢止ヲ行ハムトスルナラバ、是亦別ニ郡役所ノ存廢ニ關係ナクシテ議シテ當然ノコトト考ヘマサルガ、併ナガラ假ニ茲ニ郡制廢止ト共ニ、郡役所ノ分合ヲ行フベキヤ、否ヤト云フコトヲ考ヘルト致シマスルナラバ、私ハ順序トシテハ、先ヅ郡制ヲ廢シ、然後ニ郡役所ノ分合問題ニ及ブガ順序デアルト考ヘマス、現在、郡ノ自治體ガ存在シテ居ル間、茲ニ郡役所、郡行政區劃ノ變更ヲ行ハムト致シマスルナラバ、ソレハ甚ダ人情ニ照ラシテムヅカシイコトデゴザイマス、同ジク郡制ノ廢止ト共ニ、郡行政區劃ノ分合ヲ行ハムトスルナラバ、唯今私ガ採ッテ居リマスル方ガ順序トシテ宜シト考ヘマス、而シテ將來郡行政區劃ニ付テノ分合意見ヲ有スルヤ否ヤト云フコトデゴザイマスルナラバ、私ハ將來ニ於テハ幾多ノ廢合ヲナシ得ルト考ヘテ居リマス、併ナガラ是ハ更ニ調査ヲ致シタ上デナケレバ、正確ナルコトハ申上ゲラレマセヌ

○矢口長右衛門君 唯今本員ノ質疑セムト致シマスル所ハ、所謂郡ノ廢合ト云フモノヲ先ニスルガ宜カラズヤト云フ意見デゴザイマス、不確定ナルソレ等ノ點ニ付テ何等ノ案ヲ立テズ、而シテ之ヲ致スノハ如何ナルモノカ、斯ウ云フ意見モ考ヘテ居リマス、併シ又是ハ餘リ此コトヲ論及イタシマスルノハ、意見ノ方ニ屬シマスカラ私ハ質問ハ止メテ置キマス

○阪本鈺之助君 本員ハ此ノ郡制廢止ト云フコトハ多年一個ノ意見トシテ主張イタシテ居リマスノデ、此度政府ガ二度モ重ネテ提出セラレマシタコトハ、現内閣ノ善政ト認メマシテ、之ヲ謳歌スルニ躊躇シナイ者デアリマス、就キマシテハ唯今内務大臣ヨリ縷々説明ガゴザイマシタ點ニ付テハ、大體了承ヲ致シマシタ、又矢口君ヨリ本員ノ問ハムトスル所ノ一部ヲ御尋ニナリマシタカラ、重複ニナリマスルケレドモ、尙ホ此案ヲ贊成スル上ニ於テ、更ニ此案ノ重要ナルコトヲ徹底セムガ爲ニ、一言御尋致シテ見タイト思ヒマスノハ、曩ニ郡制ガ實施セラレマシタ爲ニ、如何ナル小郡デモ一郡役所ヲ置カレタノデアリマス、甚シキハ人口僅ニ二萬ニ達シナイ二萬有餘ノ郡デ、町村數僅ニ三四箇町村ホカ有シナイト云フ小郡デモ、郡制ヲ施行スル爲ニ一郡役所ヲ設立セラレタノデアリマス、是等ハ實ニドウモ不經濟ナコトデ、郡制ア

ルガ爲ニ斯ノ如キ面倒ガ起ルト云フヤウナコトヲ感ジテ居リマシタガ、幸ニシテ郡制ヲ廢止セラレルト云フヤウナ曉ニハ、是等ノ郡ハ、矢張郡制實施前ノ如ク數郡ヲ合シテ一郡役所ヲ置クト云フコトニナレバ、國家ニ於テハ郡長ノ俸給旅費ヲ節約シ、縣費トシテハ郡書記以下ノ俸給、其他ノ經費ノ節約ガ出來ルノデ、事務ニ一向差支ナクシテ大ニ經費ノ節約ガ出來ル譯デアリマスカラ、ドウ致シテモ郡制廢止ノ隨伴ト申スカ、結果ト申スカ、政府ハ此案ガ幸ニ通過スルコトニナリマシタ以上ハ、郡役所ノ廢合ヲ差支ナキ限リ行ハレルト云フコトハ、一ノ隨伴ノ結果デアルト云フコトヲ私ハ思ヒマス、努メテ贊成イタシタイト思フノデアリマスガ、ソレハ唯今豫言ナサルト云フコトハ、政府ニ於テハ御苦シキ立場デアルカノ如キ御様子ニ、大臣ノ御言葉ノ中デ承知シマシタカラ、ソレヲ穿ッテ御尋スルノデアリマセヌガ、折角之ヲ御斷行ナサルナラバ、是ハ必ズ郡役所ノ分合ヲナサルノデアルト云フコトヲ御聲明ナサル方ガ、本案ノ決定ニ付テハ便宜ヲ得ルト考ヘマスガ故ニ、此際サウ云フ御考ヲ御有チニナッテ居ルカドウカ、其邊ニ付テ如何ナル御考ヲ御持チニナッテ居ラレルカト云フコトヲ伺ッテ見タイノデアリマス、第二ハ近ク制定セラレタル道路法及ビ之ニ附屬スル法令ニ郡道ト云フモノガ認めラレテ居ルノデアリマス、是ハ實ニ此ノ道路法ガ本院ノ議ニ上リマシタ時分ニ於キマシテモ、本員ハ郡制廢止ト云フコトヲ始終頭ニ持ッテ居リマスガ故ニ、郡道ト云フモノハ御認めニナラヌ方ガ宜クハナイカト云フコトハ質問シタ位デアリマス、是ガ又郡制ヲ廢止ニナルト云フコトハ無論考ヘテ居ラヌ、郡道ハ必要ガアルト云フ御言葉ガアリマシテ、遂ニ郡道ナルモノヲ道路法ノ中ニ置カレテアツクノデアリマスガ、郡制ヲ廢止セラレル以上ハ郡道ト云フ……名ハ郡道トシテアリマスガ、是ハ如何ナル取扱ニナルノデアリマスカ、此ノ郡道ト云フモノノ始末ニ付テ一應伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ唯今御説明ガゴザイマセヌデアリマシタガ、最後ノ日程ニアル所ノ衆議院議員選舉區ニ關スル法律案、之ヲ見マスト云フト、郡制廢止ガ郡ノ區域ニ關係ガアルカノ如ク見エル、郡制廢止案ヲ御出シニナッテ、其次ニ衆議院ノ選舉區ノコトニ付テノ法案ヲ御出シニナッテ「郡ノ區域ニ變更アルモ衆議院議員ノ選舉ニ關シテハ」云々トアルハ、何カ此ノ郡制廢止ノ結果選舉區ノ變更ヲ來スヤウニ見エマスガ、全ク左様ナコトハナイト本員ハ信ジマスケレドモ、何故ニ斯様ナ法案ガ郡制廢止及ビ府縣制改正法ニ伴ッテ御出シニナッタノデアリマスカ、其點ニ付

テ一應御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 御答イタシマスガ、郡制ガ廢止セラレマスレバ、自然他日ノ機會ニ於テ、郡役所ノ廢合ハ行ヒタイ考ヲ有ッテ居リマス、理由ハ唯今御述ベニナリマシタト同ジヤウナ考ヲ有ッテ左様ナ考ヲ有ッテ居リマス、ソレカラ道路法ノ中ニアリマスル郡道ハ、準府縣道ト云フヤウナ具合ニ致シマシテ取扱ヒタイ考デゴザイマス、唯今御尋ニ接シマシテ申上ゲマスルガ、其ノ道路法モ施行セラレテ年ヲ重ネルコトニ相成リマス、自然事ヲ處理スル上ニ於テ複雑ニ相成ルモノト考ヘマスノデ、即チ是非此度撤廢ノコトヲ決シタイト云フノモ其理由ノ一ツデアリマス、ソレカラ衆議院選舉法選舉區ニ關スル法律案ハ、郡ガ自治體トシテ廢サレルト云フコトニナリマスレバ、行政區劃トシテハ命令ヲ以テ自由ニ廢合ガ出來ルコトニ自然相成リマス、左様ニナリマス、其命令ノ結果衆議院選舉區ニ如何ニ影響スルカト云フ議論ヲ自然惹起ス譯デゴザイマスカラ、衆議院議員選舉區ハ郡制廢止ニ關係ナク其儘別表ノ法律ヲ以テ改正セザル以上ハ移動ナキモノト、斯ウ云フ意ヲ明カニシテ置キタイ爲ニ提出イタシタ次第デアリマス

○阪本鈺之助君 最後ノ御説明ニ依リマシテ尙ホ疑ヲ存シマスガ、郡役所ハ唯行政事務ヲ取扱フ場所ナルノデアリマスカラ郡役所ノ管轄區域ヲ廢合ナル上ニ於テハ、別ニ郡ノ區域ヲ決メル必要ハナカラウト思フ、恰モ府縣ノ廢合ノ時ニ何縣ノ何郡ハ何縣ニ付ケルト云フヤウニ、何郡ノ何村ダケヲドウスル、或ハ何郡ト何郡トヲ某郡役所ニ付ケラレルト云フ、郡ノ管轄區域ヲ御定メニナレバ、郡ノ區域ヲ御決メニナル必要ハナイヤウニ思ヒマスガ、郡制廢止ノ結果區域ヲ廢スルコトガ郡役所ノ管轄區域ノ廢合ト相伴ッテサウシナケレバナラヌト云フノハ、ドウ云フコトナノデアリマスカ、モウ一應伺ヒマス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 御答イタシマスガ、將來郡ノ區域ノ變更廢合等ガアリマスル際ニハ、自然今日ノ郡ヲ以テ選舉區ヲ定メテゴザイマスル結果ハ、如何ニ選舉區ガ相成ルカト云フコトニ付テ疑義ガ生ズラウカト考ヘマス、ソレデ茲ニ之ヲ明カニシテ置ク方ガ宜シイト考ヘテ致シタ次第デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第三ヨリ第七マデノ法案モ、御異議ガナケレバ、市制中改正法律案外三件特別委員ニ付託イタシマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 日程第八ヨリ第十マデノ法案ハ同一委員ニ付託セラレマシタカラ、一括シテ問題トシ、委員長ノ説明ヲ煩ハシタク考ヘマス、御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 第八、執達吏規則中改正法律案、第九、民事訴訟費用法中改正法律案、第十、刑事訴訟費用法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ做フ〕

執達吏規則中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月二十日

右特別委員長

加太 邦憲

貴族院議長公爵徳川家達殿

民事訴訟費用法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月二十日

右特別委員長

加太 邦憲

貴族院議長公爵徳川家達殿

刑事訴訟費用法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月二十日

右特別委員長

貴族院議長公爵徳川家達殿

加太 邦憲

〔加太邦憲君演壇ニ登ル〕

○加太邦憲君 私ハ唯今問題トナリマシタ三案ニ付マシテ、委員會ノ經過ヲ御報告申シマス、此三案ハ何レモ簡單ナモノデアリマシテ、格別重要ナ質問モゴザイマセヌデアリマシタ、ソレデ質問ニ付マシテハ、別段ニ御報告ヲイタスコトヲ省キマシテ、案ノ大要ニ付マシテ、御報告ヲ致シタイト思ヒマス、先ツ第一ニ執達吏規則改正案ニ付マシテ申述ベマス、御承知ノ通り執達吏ト云フモノハ普通官吏ノ如キ俸給ト云フモノガゴザイマセヌ、手数料ト云フモノヲ以テ是デ生活シテ居ルデアリマス、左様デアリマスルカラ邊土ナ土地デ事件ノ少ナイ所ニナリマシテハ、手数料ガ少ナクテ、生活ニ差支ヘル、斯ウ云フコトニナリマスカラ、望ミ手ガナイト云フ次第ニ及ブデアリマス、ソレデ政府ハ初メ執達吏規則ノ施行ニナリマス時ニ、一箇年手数料百八十圓ニ達シナイ時ハ百八十圓ニ達スルマデノ不足額ヲ政府ガ補給スル、斯ウ云フコトニナッテ居リマス、ソレデ稍、人ヲ得タト云フ次第デアリマス、所ガ物價ノ騰貴ニ依リマシテ、ソレガ後ニ三百圓マデニ増額サレ、大正八年ノ初ニ四百五十圓ニ増額セラレマシタガ、其以後ノ經濟界ノ變動デ四百五十圓デハ少ナイト云フコトデアリマシテ、ソレデ此度ノ改正案ハ六百圓ト云フコトニナリマシタノデアリマス、ソレカラ又執達吏ハ恩給ヲ貰ヒマスガ、此恩給ト云フモノハ官吏ニ付テハ俸給カラ割出シテアリマスガ、執達吏ニハ俸給ガゴザイマセヌカラ、此手数料ト政府ノ補給トヲ合セテ六百圓ト云フコトガ唯今申述ベタヤウニ定メラレマシタニ付テハ、其六百圓ヲ以テ恩給割出シノ標準トスル、現行法ナレバ、四百五十圓ヲ以テ恩給割出シノ標準トスル、斯ウ云フコトニナリマスノデアリマス、即チ俸給額ガ殖エマシタニ從ッテ恩給モ多ク貰ヘル、斯ウ云フコトニナリマスノデアリマス、大正八年ニ於キマシテ、執達吏ノ人数四百七十六人ゴザイマス、其内手数料ガ四百五十圓ニ達セズシテ補給ヲ受ケマシタ者ガ四十六人、即チ一割弱デアリマス、サウシテ八年度ノ補給額ハ五千三百三十五圓、ソレカラ自身ノ収入ガ、即チ手数料ガ一萬四千六百十三圓、之ヲ合セテ此四十六人ガ一人ニ付テ四百五十圓ト云フモノヲ得マシタ、斯ウ云フ次第ニナリマスノデアリマス、次ニ民事訴訟費用法律改正案、是ハ明治二十三年ニ定メラレマシタ費用法ト云フモノガ今日迄行ハレテ居リ

マシテ、如何ニモ今日費用額ガ少ナイノデ、ソレデ二種ニ之ヲ改メラレマシタ、一ツハ十錢ノモノヲ二十錢ト云フ倍額、或ハ一圓ヲ二圓ト云フ斯ウ云フ風ニナリマシタノト、モウ一ツハ最高額ト最低額ヲ定メマシテ、サウシテ各地方裁判所管内ニ於キマシテ、土地ノ事情ニ從ヒマシテ其間ノ額ヲ適宜ニ定メル、廣ク自由ニ定メラレマシタノト此二ツデアリマス、至極至當ノ定メ方ト存ゼラレマス、ソレカラ刑事訴訟費用ニ付マシテハ是迄法律ガゴザイマセヌ、刑法施行法ノ中ニ費用ノコトガ簡メテ書イテアッタノデアリマス、ソレヲ此度民事ニ付マシテ、費用ガ増シマスル釣合上、刑事ニ付テモ増サナケレバナラス、其序ヲ以テ民事ト等シク法律ニスルト云フ斯ウ云フコトニナリマシテ、始メテ法律案ニナリマシタノデアリマス、其定メ方ハ民事ノ方ト平均ヲ失ハヌヤウニ定メラレマシタノデ、別段改メテ一々申上ゲル程ノコトモゴザイマセヌ、斯ウ云フ次第デアリマシテ、此三件ハ何レモ簡單デアリマスカラ、別段討論モゴザイマセズ、全會一致ヲ以テ可決シタ、斯ウ云フ次第デアリマスカラ、宜シク御賛成ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 三案トモ第二讀會ヲ開クコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○伯爵松平頼壽君 直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵池田政時君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ三案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、三案全部ヲ問題ニ供シマス、全部原案ニ御異存アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○伯爵松平頼壽君 直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵池田政時君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ三案ノ第三讀會ヲ開クコトニ御異存ゴザイ

マセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、第二讀會ノ決議通り御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第十一、公有水面埋立法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、清棲伯爵

公有水面埋立法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月二十日

右特別委員長

伯爵清棲 家教

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔伯爵清棲家教君演壇ニ登ル〕

○伯爵清棲家教君 公有水面埋立法案委員會ノ經過竝ニ結果ヲ申上ゲマス、此ノ委員會ハ二回開キマシテ、政府委員ヨリ提出ノ理由ヲ聞イタンデアリマス、其提出ノ理由ハ曩ニ本議場ニ於キマシテ、内務大臣ノ御演說ニナリマシタノト同様ノ事柄デゴザイマス、其理由ノ大體ヲ簡單ニ申上ゲマスルガ、近頃公有水面埋立ノ願書ト云フモノハ、多數ニ出テ居ル譯デアリマス、然レ今日迄ハ相當ナル法案ガナイガ爲ニ、官有地取扱規則ト云フ即チ勅令ニ依リマスルト、主務大臣ノ訓令ニ依リマシテ、其願書ニ對シテ處理ラシテ居ッタノデアリマス、然レ時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ、多數ノ出願ニ對シマシテ、ソレノレノ法規ヲ以テシナケレバナラヌト云フ必要ヨリ致シマシテ、此度此法案ヲ御提出ニナッタノデゴザイマス、即チ其ノ御提出ノ理由ト申シマシテハ、水面埋立ラシマシテ陸地ト致シマスルコトハ、今日ノ時勢ニ於キマシテ最モ適當デアリマシテ、耕作地トスルコトモ出來マスレバ、住宅地トスルコトモ出來マスシ、將又工業地トモスルコト云フコトガ往々ニ出來ルコトニナリマスルノデ、就キマシテハ水面ニ於キマシテハ、或ハ漁業權ノ如キ、入漁權ノ如キモ

ノ有ッテ居ル者モゴザイマセウ、併ナガラソレ等ハ法律ヲ以テソレゾレ獎勵スルコトニナッテ居ル、此法案ニ依リマスルト云フト、此出願ニ對シマシテハ、拒否權ヲ地方長官ニ委託シテ居ルノデアリマス、併ナガラ或場合ニ於キマシテハ内務大臣ニ提出ラシテ、總テ其指令ヲ得ルコトニナッテ居リマス、又一ツニハ其出願ニ對シテ地方長官ガ拒否イタシマシタニ付テ、訴願ノ途ヲ開イテ居リマスシ、又行政訴訟ノ途モアルノデゴザイマスヤウノ譯デアリマシテ、其條項ニ付テ一々申上ゲマスルコトハ時間ヲ非常ニ費シマスルカラシテ、之ヲ省クコトニ致シマス、ソレカラ尙ホ二三ノ御質問ガゴザイマシタカラ之ヲ申上ゲマスルガ、一ツノ御質問ハ此事業ガ二府縣以上ニ互ル場合如何ニスルカト云フ御質問デアリマシタガ、是ハ問答ニヨリマシテ、二府縣以上ニ互ルトキハ内務大臣ガ之ニ對シテ相當ノ採否ヲ決スルコトニナッテ居リマスト云フ御答辯デアリマシタ、ソレカラソノ今一ツハ公有水面埋立テル場合ニ於テ、市町村ノ意見ヲ徵スルト云フ法案ニナッテ居リマスガ、其個人ニ於テ利害關係ヲ有ッテ居ルト云フ者ガ、彼レ是レ苦情ヲ云ウタトキニ、如何ニスルカト云フ質問ガ出マシタガ、之ニ對シマシテハ、政府委員ノ答辯デハ、其企業者ノ爲スコトガ公益ニ大ニ害ガアルト認メタトキニハ言ハサセル、大ニ公益上必要ト認メタ場合ニハ相當ノ指令ヲスル、即チ許可ヲスルト云フ方針デアアル、斯ウ云フコトデゴザイマシタ、ソレカラ今一ツノ御質問ハ此ノ法文中ニゴザイマスルガ、埋立ヲスル企業ニ付テ他人ノ地所ニ於テソレゾレノ仕事ヲスルニ付テ此地所ヲ用キルト云フコトニナッテ居ルガ、如何ニモ是ハ宜クナイコトデハナイカト云フ御尋デアリマシタガ、併ナガラ政府委員ノ答辯ニ依リマスレバ、是等ハ一時ノコトデアアル、一時ノコトデアッテ決シテ其ノ所有者ノ土地ニ對シテ、非常ニ迷惑ヲ掛ケルト云フヤウナコトヲサセヌ積リデアアル、眞ノ一時ノ場合ニハサウ云フコトヲ許ス積リデアアルト云フコトデゴザイマシタ、其外ニハ御質問ハゴザイマセヌ、併ナガラ其ノ御質問ノ御話ト致シマシテハ、ナカナカ長ウゴザイマスカラ、是ハ速記ニ讓リマシテ、申上ゲルコトハ止メマス、今申上ゲタヤウナ理由デゴザイマスルガ爲ニ、此法案ノ如キ時勢ノ進運ニ伴ッテ最モ必要ナル所ノ法案デアアル、現在誠ニ不備不完全ナル勅令及ビ訓令ニ依テ取扱ッテ居ルノデアアルカラ、此法案ノ如キモノヲ以テ事業ヲ保護スルト云フコトニ付テハ、最モ必要ナルコトデアアル、尙ホ又此法案ノ中ニ勅令ニ讓ッテ居ルコトガ澤山ゴザイマス、併ナガラ此勅令ニ付マシテハ參考書トシテ

内務省ヨリ我々ノ手許ニ貫テ居ルモノガゴザイマスルガ、之ヲ一々申上ゲマ
スレバ是亦非常ニ時間ヲ要シマスルデ申シマセヌガ、併ナガラ細カイコトハ
勅令ニ讓ルト云フコトニナツテ居リマス、主トシテ公有水面埋立ヲスルト云フ
公益ノコトニ付テハ保護スルト同時ニ、又漁業權其他ノ權利ヲ有テ居ルモノ
ニ付テハ、是亦相當ノ措置ヲ執ルト云フコトデアリマシテ、行政上トシテ十
分注意ヲシテ此事業ヲシテ發達セシムルト云フコトデアリマシタ爲ニ、委員
會ニ於キマシテハ、何等異議モ無クシテ全會一致ヲ以チマシテ、可決スベキ
モノト議了イタシマシタノデゴザイマス、是ダケヲ申上ゲマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ第二讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○伯爵松平頼壽君 直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ望ミマス

○子爵野村益三君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異存ゴザイマ
セヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、本案全部ヲ問題ニ供シマ
ス、全部原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○伯爵松平頼壽君 直ニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ望ミマス

○子爵堤雄長君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ本案ノ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌ
カ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、第二讀會ノ決議通りデ御
異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第十二、黃燐燐寸製造禁止法案、政府提出、
衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

黃燐燐寸製造禁止法案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十年三月十九日

右特別委員長

淺田 徳則

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔淺田徳則君演壇ニ登ル〕

○淺田徳則君 過日御付託ニ相成リマシタ黃燐燐寸製造禁止法案ニ付マシ
テ、委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ一回開キマシテ直
ニ決了イタシタノデアリマス、此法案ノ内容ハ既ニ理由書ニモ大略記載シ
テアリマス通りデアリマシテ、御承知ト存ジマスガ、尙ホ政府委員ヨリ精シ
ク述ベラレマシタコトガアリマスカラ、其要略ヲ茲ニ申上ゲヤウト思ヒマス、
此黃燐燐寸人體ニ有害デアリマスコトハ著明ナルコトデアリマシテ、西曆ノ千
九百六年「ベルン」ノ萬國會議ニ於キマシテ、條約ヲ締結イタシマシテ、黃燐
ヲ原料トシテ製造スル所ノ燐寸、其ノ製造輸入又ハ販賣等ヲ禁止スルコトヲ
約シテ居リマス、爾來此條約ニ加盟イタシマスル邦國ハ漸次増加イタシマシ
テ、現今ニ至リマシテハ、主ナル工業國ニ於テハ、概ネ之ニ加盟シテ居ルノ
デアリマス、又加盟ヲ致サザル國ニ於キマシテモ、是等ノ製造ハ禁止ヲ致シ
テ居ルノデアリマス、本邦ニ於キマシテハ、從來之ヲ製造イタシテ居ッタノデ
アリマスガ、明治十八年ニ至リマシテ一時之ヲ禁止サレマシタ、然ニ其後支
那地方ニ於キマシテハ、此ノ黃燐燐寸ト云フモノガ需要ガ益々盛ニナツテ參リ
マシタ爲ニ、我國ヨリシテ輸出ヲ致シマスル商品ト致シマシテ、之ヲ經營ス
ルノ必要ガ起リマシタ爲ニ、二十三年ニ至リマシテ是ガ禁ヲ解キマシテ、解
キマスルト同時ニ、嚴重ナル取締ノ下ニ製造イタシタノデアリマス、其後工
場法モ施行イタサレマシテ、此ノ有毒料品ノ取扱業務ト致シマシテ、十五歳未
滿ノ幼者ノ使用ヲ禁ジ、又黃燐燐寸ノ蒸氣等ノ發生イタシマスル場所ニ於テ
ハ、幼者及ビ女子等ノ就業スルコトヲ禁止サレタノデアリマス、然ニ此實際
ノ段々ト調査ヲ致シマスルニ付マシテ、其ノ中毒者ノ多數ナルコトヲ發見イ

タシマシタ、又其ノ中毒タルヤ、實ニ慘害ヲ極メタ趣デアリマス、茲ニ於テ政府ニ於テモ、是非コレハ此儘ニ許スト云フコトノ出來ナイト云フコトヲ發見サレタ次第デアリマス、時恰モ北米合衆國ニ於キマシテ、第一回労働會議ニ於キマシテハ、即チ此「ベルン」ノ萬國會議ノ決議ノ趣旨ニ從ヒマシテ、此趣旨ニ依テ禁止ヲ致シマセヌ所ノ各國ニハ勸告ヲスベシト云フコトノ決議ヲ致シタノデアリマシテ、此當時ニハ我國ノ労働代表者モ參加イタシタノデアリマス、斯様ナル次第デアリマスニ依テ、此機會ニ於キマシテ、我國ニ於テモ其趣旨ヲ容レマシテ即チ之ヲ禁止セムト致スノ趣旨デアリマス、大體此法案ノ要旨ハ唯今申上ゲタ次第デアリマスガ、委員會ニ於キマシテハ二三ノ質疑ガアリマシテ、之ヲ實施スルニ付テハ現狀ハ如何ニナツテ居ルカ、又既ニ斯ノ如ク慘害ノアルコトガ明白ニナレバ、此ノ附則ニモアリマスル通りニ、施行ハ十一年ノ七月ヨリ施行スルコトニ相成ツテ居リマスガ、施行後ニ於キマシテモ尙ホ一箇年猶豫ヲ與ヘルト云フコトニナツテ居リマスノデ、ソレハ少シク長過ギハシマイカ、直ニ是ハ施行期日ト同時ニ總テ之ヲ禁止スルト云フ風ニシテハ如何デアルカ、斯様ナ質疑ガアリマシタノデアリマスガ、之ニ對シマシテ政府委員ノ説明ヲ承ハリマシタノニ、目下此ノ製造業ト云フモノハ支那地方ニ於テモ需要ガ激減イタシマシテ、現在此製造ヲ致シテ居ルト云フ者ハ今日迄ノ契約ニ依リマシテ製造イタシテ居ル者、若クハ既ニ製造イタシテ未ダ捌ケザル所ノ商品ガ存シテ居ル位ノコトデアリマシテ、之ヲ禁止サレマシテモ其影響ト云フモノハ當業者ニ取リマシテモ甚シキ影響ハアルマイト云フコトデアリマス、又一年ノ期間ヲ與ヘマシタノハ、持品ヲ其間ニ處分サセルト云フ趣旨デアリマシテ、大抵其邊ノ期間ヲ與ヘタナラバ其間ニ處分スルコトガ出來ルデアラウト、斯様ナ説明デアリマシタ、デ是ハ討議ニ入りマシタガ、何等異議ナク、全會一致ヲ以テ可決イタシマシタ次第デアリマス、此段御報告ヲ申上ゲマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○大山綱昌君 直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○男爵黒川幹太郎君 賛成

○伯爵柳原義光君 賛成
○議長(公爵徳川家達君) 本案第二讀會ヲ直ニ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、本案全部ヲ問題ニ供シマス、全部原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○大山綱昌君 直ニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○男爵黒川幹太郎君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ本案ノ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 第二讀會ノ決議通りデ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、次ノ議事日程ハ決定次第御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會

午後零時四分散會

